

演劇界この夏一番の話題 蜷川幸雄演出での舞台化へ
彩の国ファミリーシアター

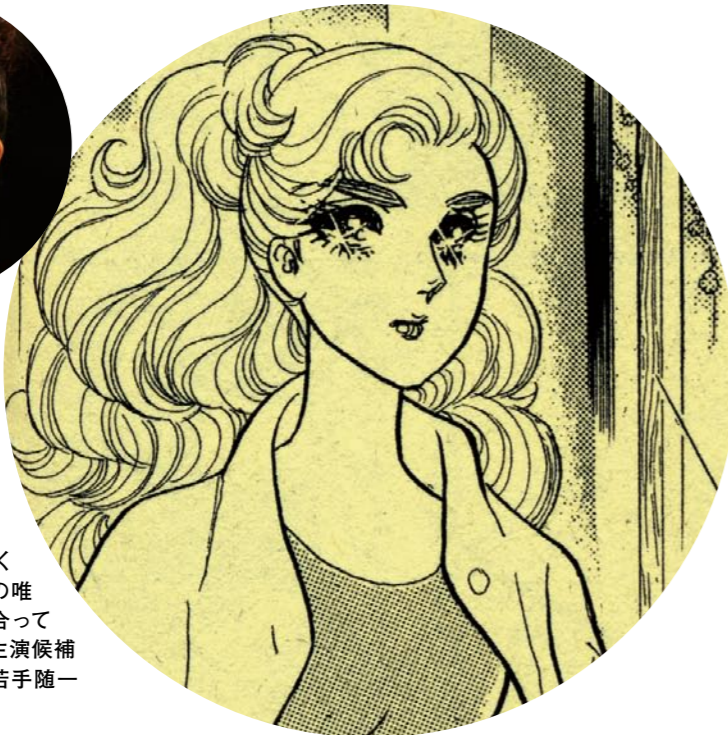
音楽劇『ガラスの仮面』 詳細決まる!

世代を超えたファンを持つ、あの演劇コミックの名作『ガラスの仮面』が音楽劇になる!!
幻の名作『紅天女』の主演をめぐり、北島マヤとそのライバル・姫川亜弓が繰り広げる演劇の世界を描いた作品は、発行総数5000万部を誇る国民的コミック。それを蜷川幸雄が、オーディションで選んだ運命の少女2人と音楽劇にするという大きな話題が舞い込んだ。



姫川亜弓 ひめかわ あゆみ
奥村佳恵

有名映画監督と大女優・姫川歌子の間に生まれ、子役の頃からその天才的な演技力と美貌で名声を欲しいままにしてきた、演劇界のサラブレッド。マヤの演技の才能には早くから気づき、女優として自分の唯一のライバルとして認め競い合っている。もう一人の『紅天女』の主演候補として月影千草に認められた若手随一の女優。



速水真澄
はやみ ますみ

大手芸能プロダクション・大都芸能の若社長。父・速水英介同様、『紅天女』を自らの手で上演することに執念を燃やしている。周囲からは冷血で、仕事の鬼とされているが、マヤの演技と出会い、そのひたむきさや純粋さに次第に惹かれる。そして匿名のファンとなり、舞台の度に紫のバラを贈る「紫のバラの人」としてマヤを応援していく。



北島マヤ きたじま まや
大和田美帆

中学生まで一見普通の平凡な少女にすぎなかったが、往年の大女優・月影千草に見いだされ、演劇と出会い天才的な才能を示す。劇団の奨学生になるチャンスを掴み、女手ひとつで育ててくれた母親の反対も押し切って女優の道を歩んでいる。何よりも芝居が好きという強い情熱を持ち、姫川亜弓とともに、月影千草のもと『紅天女』の主演を目指す。



月影千草
つきかげ ちぐさ

『紅天女』の上演権を持ち、それを演じることの出来る唯一の往年の大女優。一線を退いているが劇団つきかけを立ち上げ若手俳優を育成しており、演劇に関しては決して妥協を許さない。『紅天女』の主演女優を自らの手で育てようとするマヤの才能を一目で見抜き、厳しい稽古をつけて育てている。また姫川亜弓も『紅天女』の候補の一人として認め、マヤと競わせる。



桜小路 優
さくらこうじ ゆう

姫川亜弓も所属する劇団オンディーヌの若手の実力派俳優。マヤのデビュー当時からマヤを励まし、精神的に支える好青年。秘かにマヤに想いを寄せていたが、マヤの女優としての成長ぶりを心から支援し、演劇の理解者として見守り続ける。後に『紅天女』のための試演では、マヤの相手役を演じる。

原作者・美内すずえ先生から届いた 音楽劇『ガラスの仮面』へのメッセージ

取材・文 = 徳永京子 (演劇ライター)

『ガラスの仮面』はとても長く描き続けていますから(連載開始は76年)、登場人物ひとりひとりが、私にとって親戚のような存在です。昔からお互いによく知っていて、実家に帰ると会える、みたいな関係ですね(笑い)。

ですから私は、マヤや亜弓たちを生み出した原作者でもあり、同時に彼女たちを独立した存在とを感じる読者代表でもあると、自分で思っているんです。『ガラスの仮面』はこれまでも何度か舞台化、ドラマ化されてきましたが、企画としていただいたお話は何倍にも上ります。その中から、原作者として読者代表として、キャスティングなど期待できるポイントがあると感じた時、実際に進行していただきます。

蜷川さんが演出する、 “生きる情熱”がテーマの舞台に期待

今回の彩の国さいたま芸術劇場での舞台化は、蜷川幸雄さんが演出して下さるということ、そして音楽劇であるということに、まず心が動かされました。蜷川さんの舞台は以前から大ファンでしたし、音楽劇という形は、これまでの舞台やドラマとはまた違う、新たな展開が見られると思ったんです。テーマさえ損なわなければ、原作とは違う形の『ガラスの仮面』があっても構いません。むしろ早く観てみたいと、楽しみにしているんですよ。

『ガラスの仮面』のテーマは“生きる情熱”です。目の前に壁が立ちました。それをどう突き破るか。マヤは、回り道をしたりよじ登ったりせず、正面から壁を突き破るタイプ。彼女がそういう姿勢で困難を乗り越えるたびに、読者の方から「勇気をもらった」というお手紙をいただいていたので、そこは大切にしていきたいと思っています。

また今回、マヤと亜弓をオーディションで選ぶという点もとてもおもしろいと感じました。どんな方が選ばれるのかという心配は、まったくありませんでした。その過程が『ガラスの仮面』的でしたし、選ばれたおふたりには、ぜひ頑張ってくださいと思います。

私も最終選考に審査員として参加させていただきましたが、会場に入った時、机の配置や天井の高さが自分が描いたオーディション会場とそっくりで驚きました。そして参加者の皆さんの緊張感や蜷川さんの熱気がとても刺激的でした。ひとりで紙の上のコツコツと絵を描く作業を続けていると、作品の立体化への興味が生まれますし、また、共同作業に憧れるようにもなります。それが今回、現実のものになります。稽古も拝見して、原作のために取材しようと考えているんです。そうしたことも含めて、今から公演がとても楽しみです。

美内すずえ みうち すずえ

漫画家。大阪府出身。「山の月と子ダヌキ」と「別冊マーガレット」で金賞を受賞し、高校生漫画家としてデビュー。以降「13月の悲劇」「はるかなる風と光」「妖鬼紀伝」等、次々に意欲作を発表し、人気漫画家となる。「ガラスの仮面」は1976年の連載当初よりベストセラーとなり、少女漫画史上、空前のロングセラー作品として読者から絶大な支持を受けている。過去に舞台化、テレビドラマ化、アニメーション化されている。音楽劇としての上演は今回が初めてとなる。